



2019年3月期 決算説明会資料

2019年6月6日

証券コード：4022

目 次

- 1. 事業概要**
- 2. 2019年3月期実績及び2020年3月期見通し**
- 3. 中期経営計画の進捗状況**

1. 事業概要

事業概要

会社概要

商号	ラサ工業株式会社
本社	東京都中央区京橋一丁目1番1号
創業	1913（大正2）年5月1日
設立	1918（大正7）年6月26日
従業員数	567名（連結）

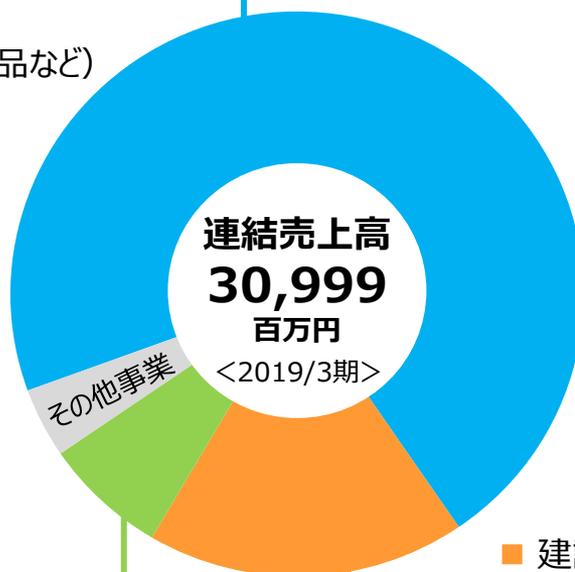
<2019年3月31日現在>

化成品事業 22,127百万円／71.4%

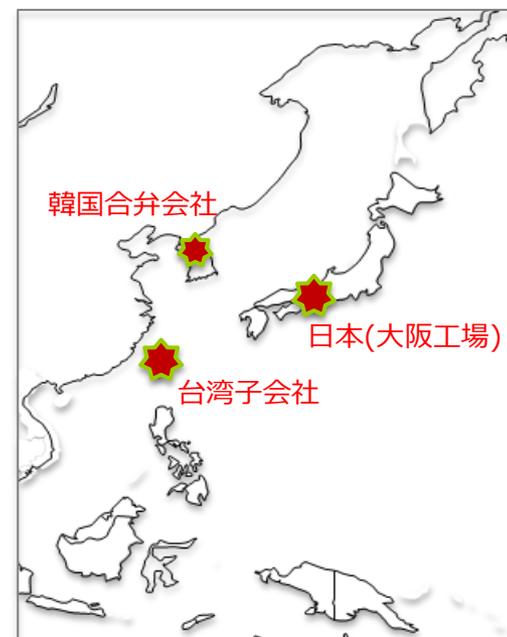
- リン系製品
 - リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）
 - リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、消臭剤など）

- 化合物半導体向け高純度無機素材（ガリウム、インジウム、高純度赤リン、高純度酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

電子材料事業 2,234百万円／7.2%



- 建設機械（破碎機、選別機、粉体機器）
 - 土木機械（掘進機（上下水道向け））
- ## 機械事業 5,441百万円／17.6%



<半導体向け高純度リン酸の製造体制>

2. 2019年3月期実績及び2020年3月期見通し

2019年3月期 決算概要

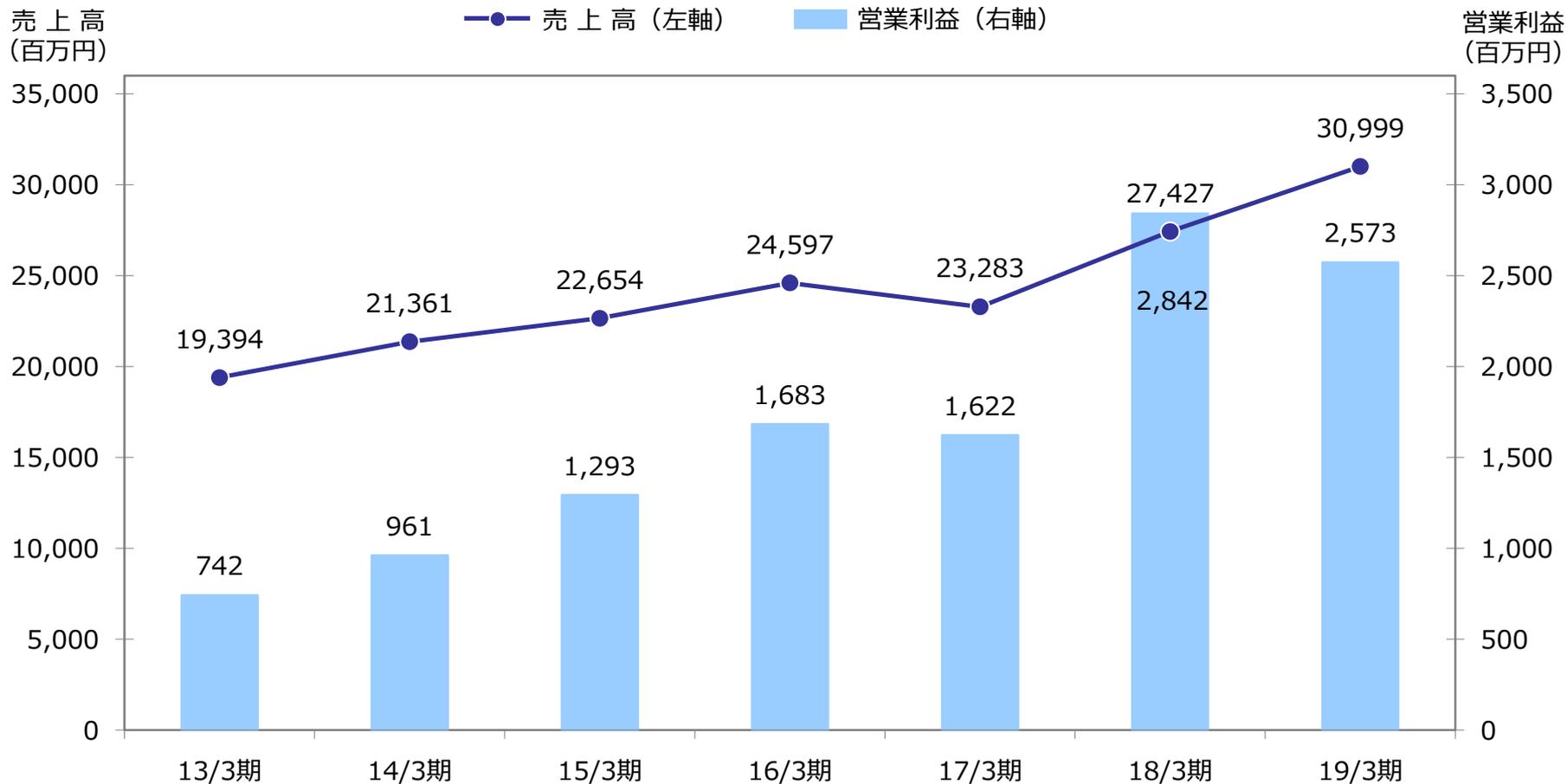
- 売上高は、化成品事業で半導体向け販売拡大、増産効果の寄与もあり増収。
- 営業利益は、償却費等の影響で減益。
親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等調整額により微増益。

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減	前年同期比	期初計画	増減
売上高	27,427	30,999	3,572	13.0%	32,000	△ 1,001
営業利益	2,842	2,573	△ 269	△ 9.4%	2,800	△ 227
経常利益	2,718	2,618	△ 100	△ 3.7%	2,800	△ 182
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,251	2,274	23	1.0%	2,300	△ 26
1株配当金	40.00円	40.00円	-	-	40.00円	-
(減価償却費)	1,024	1,322	298	29.1%		

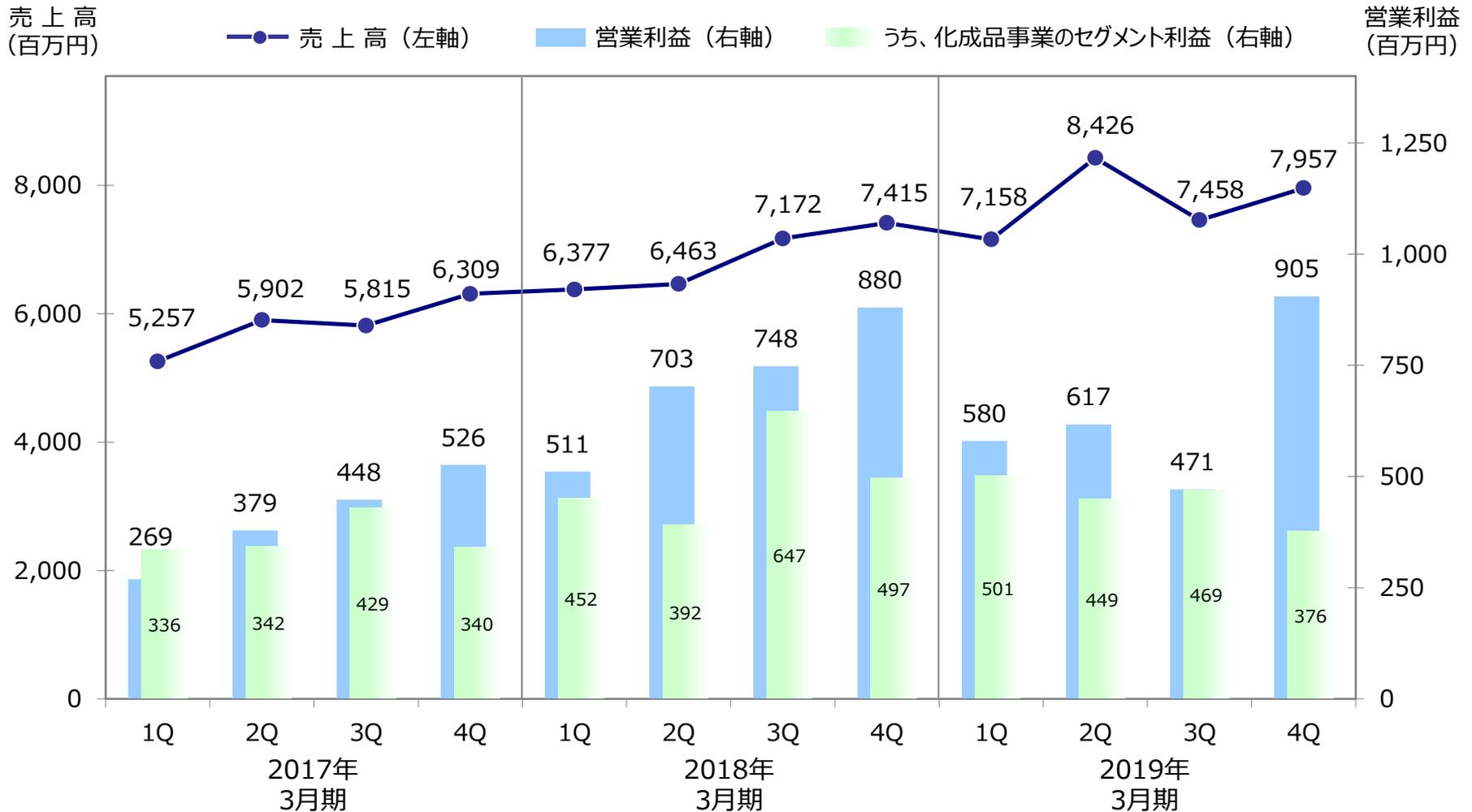
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移

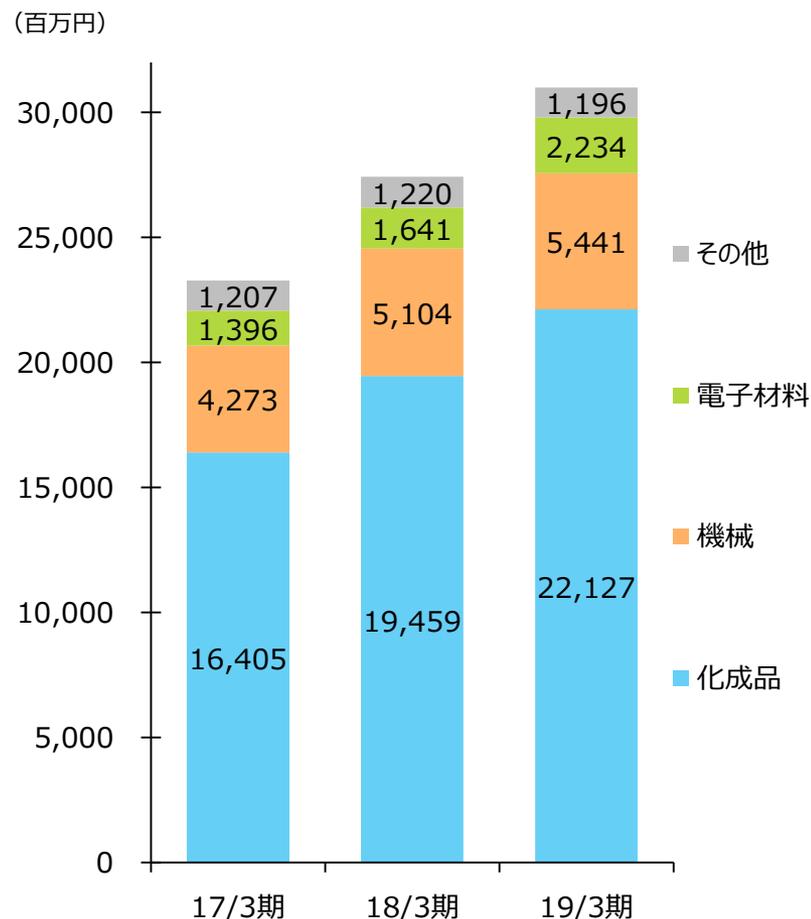


2019年3月期 セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

(単位：百万円) (百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減	前年同期比
化成品	19,459	22,127	2,668	13.7%
機械	5,104	5,441	337	6.6%
電子材料	1,641	2,234	593	36.1%
その他	1,220	1,196	△ 24	△ 2.0%
合計	27,427	30,999	3,572	13.0%



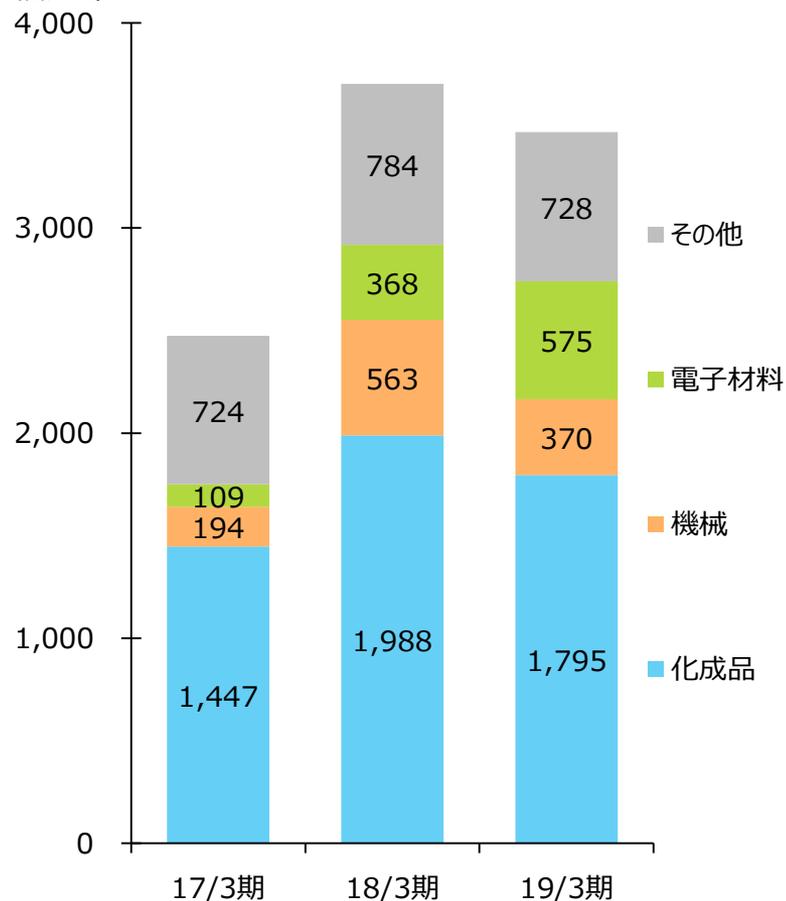
2019年3月期 セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

（単位：百万円）

	2018/3期	2019/3期	増減	前年同期比
化成品	1,988	1,795	△ 193	△ 9.7%
機械	563	370	△ 193	△ 34.1%
電子材料	368	575	207	56.1%
その他	784	728	△ 56	△ 7.1%
（調整額）	△ 862	△ 897	△ 35	—
合計	2,842	2,573	△ 269	△ 9.4%

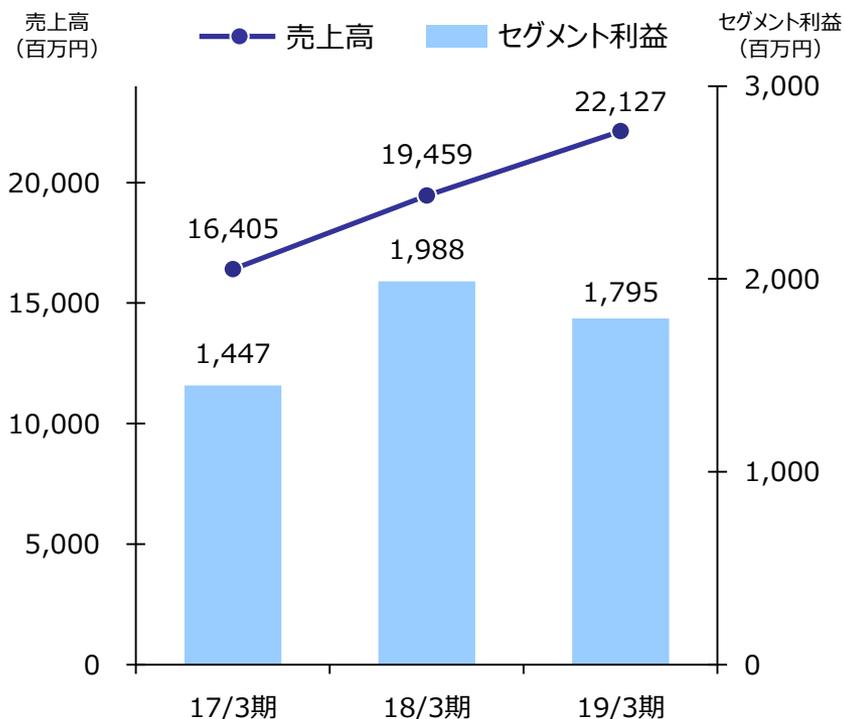
（百万円）



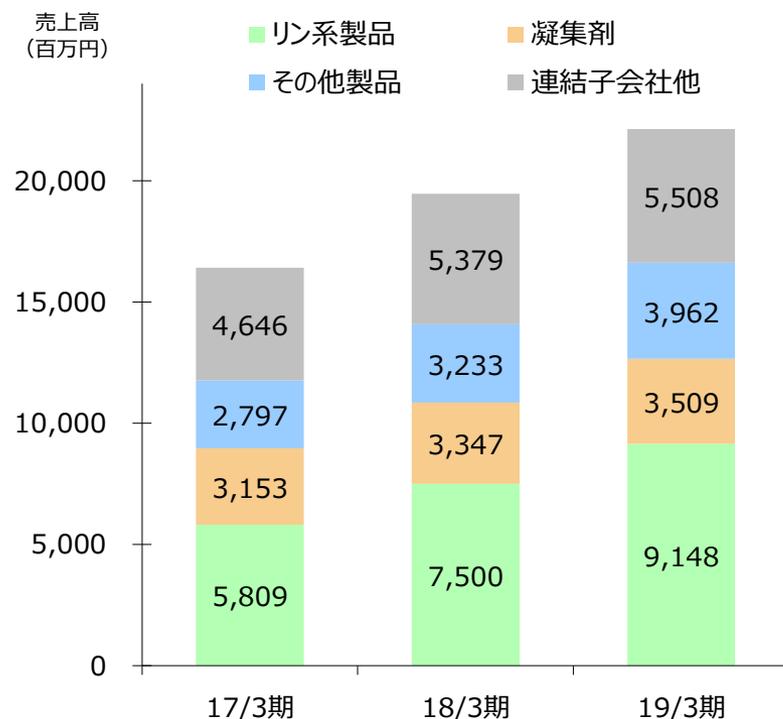
化成品事業

- リン系製品は、電子工業向け高純度品が拡大、増産効果も寄与。償却費等のコスト増。
- その他製品は、コンデンサー向け原料が、客先需要の拡大で大幅な増収。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

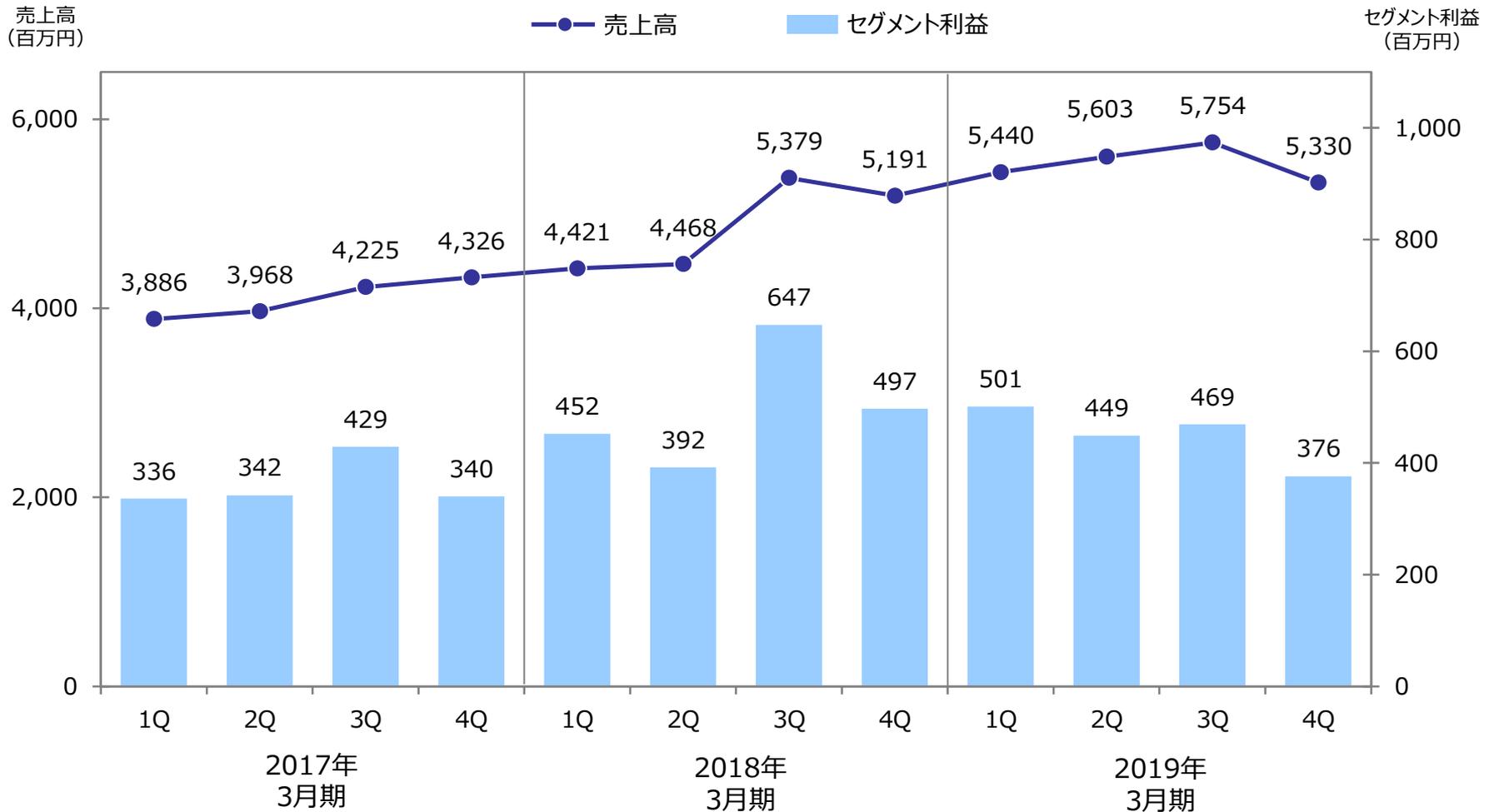


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

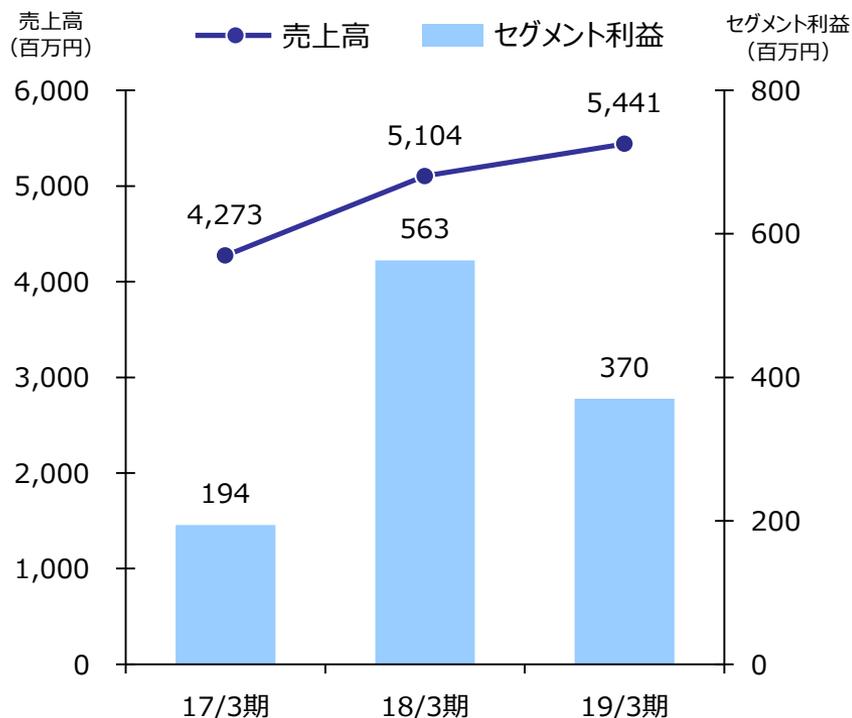
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



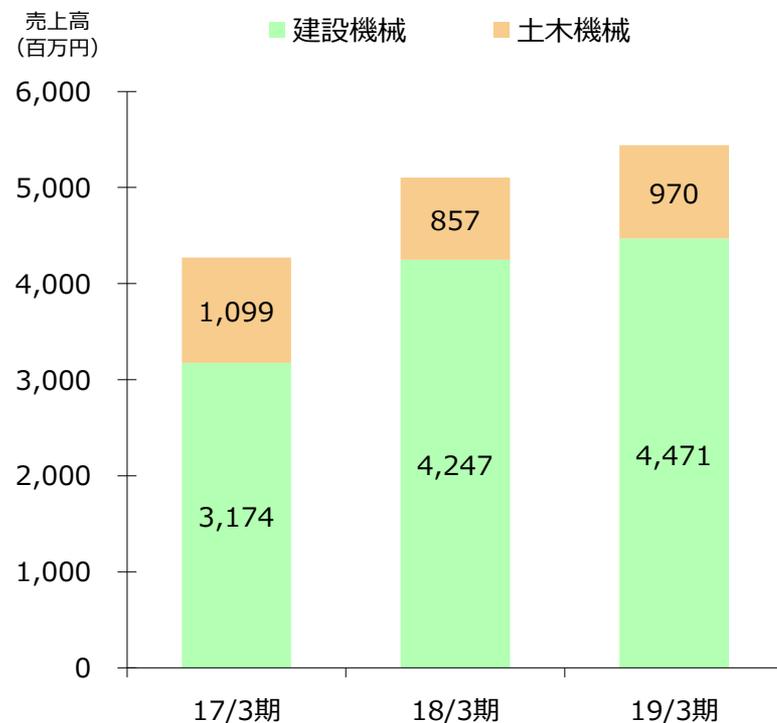
機械事業

- 建設機械は、除染関連プラント販売により増収も、損益面は低調。
- 土木機械は、掘進機の本体販売において、アジア向け輸出が寄与。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

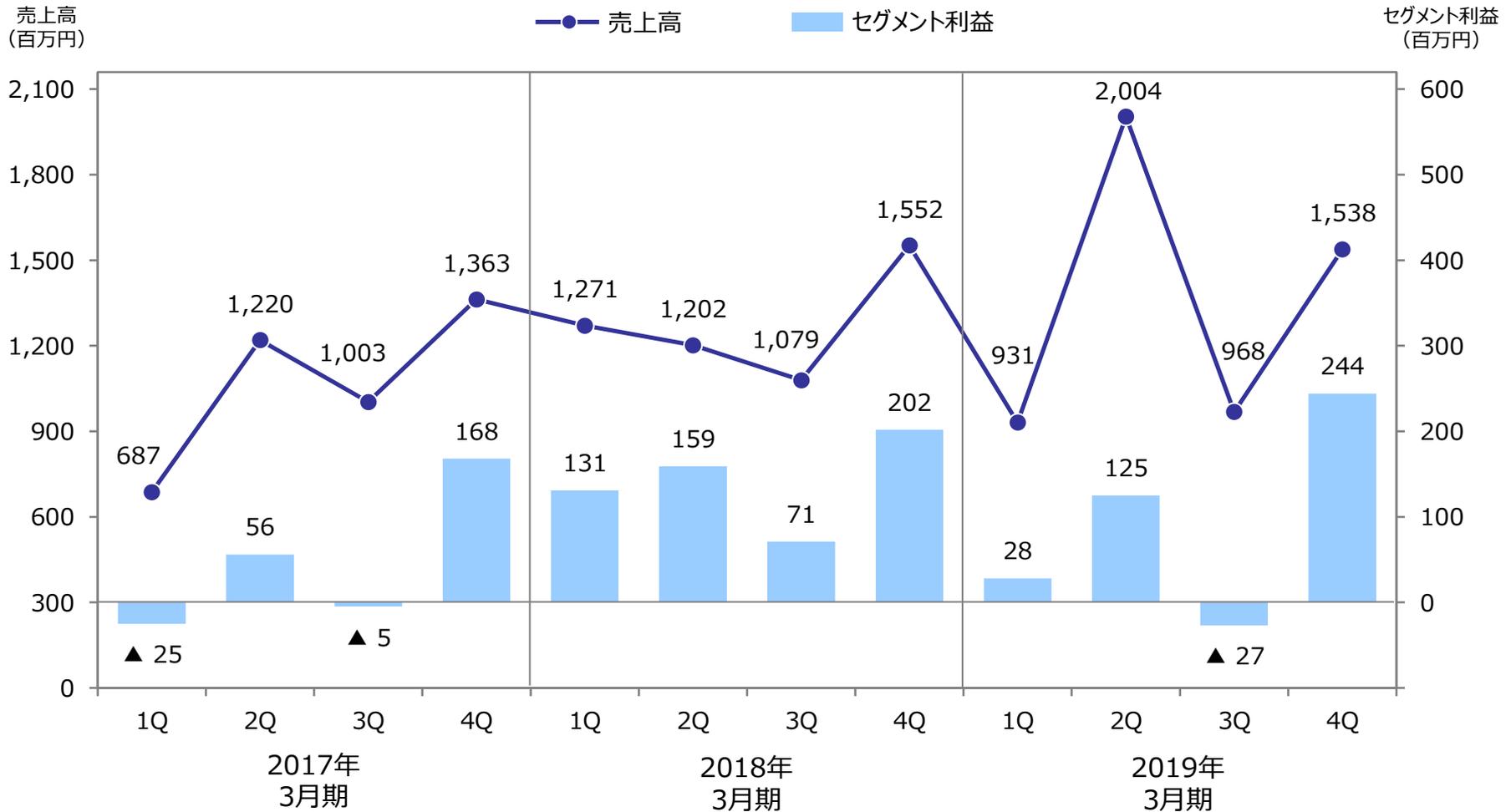


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

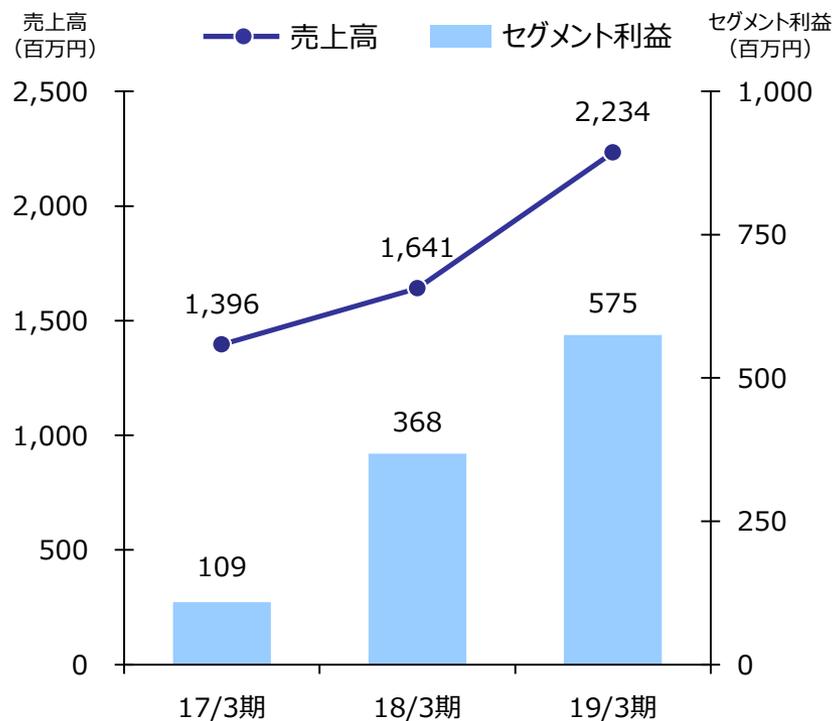
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



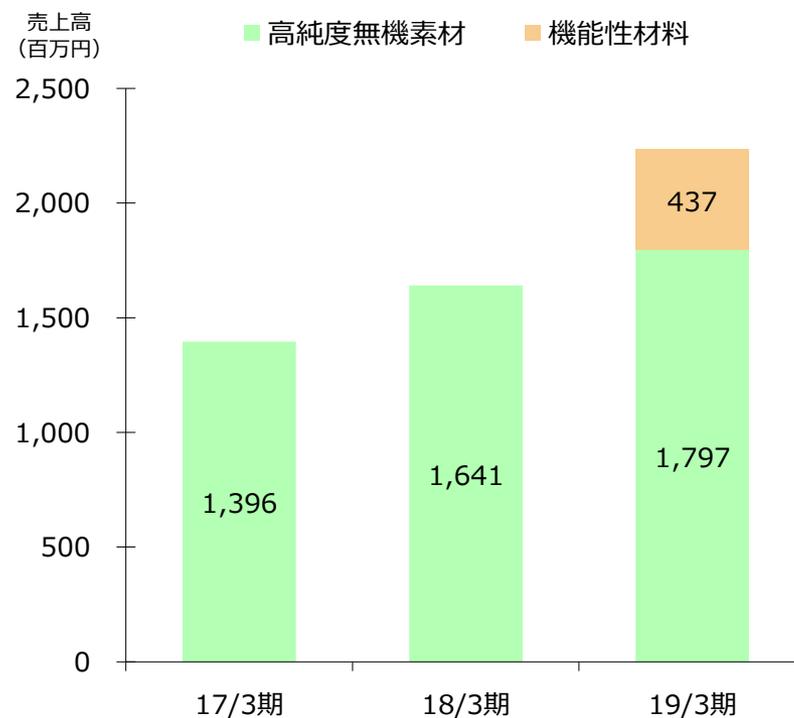
電子材料事業

- ガリウム、インジウムの、販売価格の回復と、需要の増加により増収増益。
- 原子力発電所向けの放射性ヨウ素吸着剤が、3期ぶりの販売。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

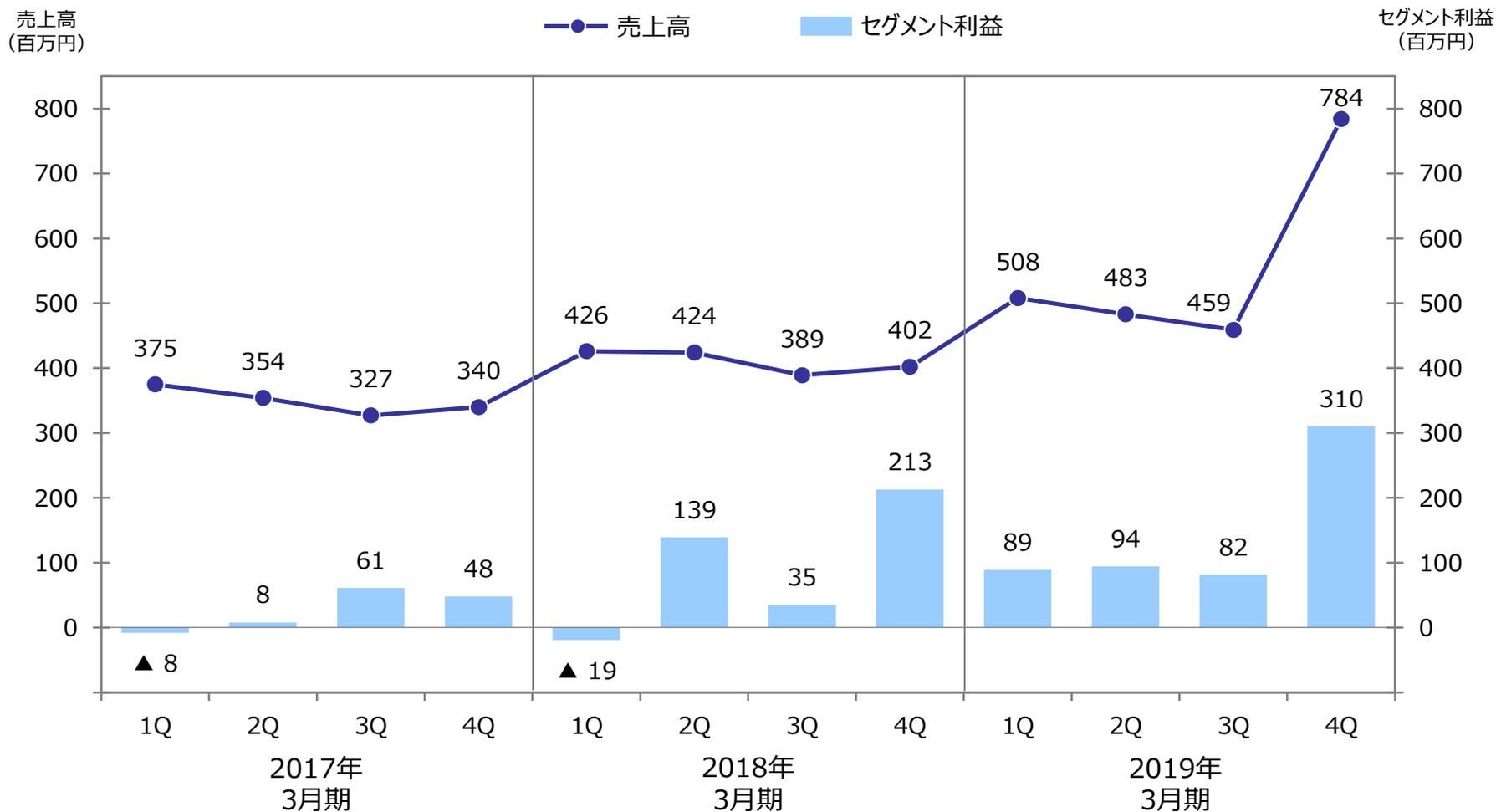


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2018/3期	2019/3期	増減	前年同期比
売上高	27,427	30,999	3,572	13.0%
売上原価	20,395	24,100	3,705	18.2%
販売費・一般管理費	4,189	4,325	136	3.2%
営業利益	2,842	2,573	△ 269	△ 9.4%
営業外収益	285	458	173	—
営業外費用	409	413	4	—
経常利益	2,718	2,618	△ 100	△ 3.7%
特別利益	9	16	7	—
特別損失	—	13	13	—
税金等調整前当期純利益	2,727	2,620	△ 107	△ 3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,251	2,274	23	1.0%
(減価償却費)	1,024	1,322	298	29.1%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2018/3月末	2019/3月末	増減
流動資産 計	17,559	18,019	460
現金及び預金	5,188	5,333	145
受取手形及び売掛金	8,248	8,625	377
たな卸資産 ※	3,591	3,752	161
固定資産 計	18,720	20,599	1,879
有形固定資産	14,583	17,176	2,593
無形固定資産	947	36	△ 911
投資その他の資産	3,189	3,387	198
流動負債 計	12,992	13,649	657
支払手形及び買掛金	4,240	4,121	△ 119
短期借入金	5,410	6,542	1,132
固定負債 計	10,281	10,222	△ 59
長期借入金	6,813	6,850	37
退職給付に係る負債	2,936	3,048	112
純資産	13,007	14,746	1,739
自己資本	12,962	14,700	1,738
非支配株主持分	44	45	1
総資産	36,280	38,619	2,339
<自己資本比率>	35.7%	38.1%	

※ たな卸資産 = 商品及び製品 + 仕掛品 + 原材料及び貯蔵品

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

	2018/3期	2019/3期	増減
営業キャッシュ・フロー	2,538	2,769	231
税金等調整前当期純利益	2,727	2,620	△ 107
減価償却費	1,024	1,322	298
売上債権の増減額（△は増加）	△ 1,178	△ 415	763
たな卸資産の増減額（△は増加）	△ 212	△ 198	14
仕入債務の増減額（△は減少）	813	△ 111	△ 924
法人税等の支払額	△ 219	△ 509	△ 290
投資キャッシュ・フロー	△ 2,120	△ 3,522	△ 1,402
有形固定資産の取得による支出	△ 2,140	△ 3,561	△ 1,421
財務キャッシュ・フロー	1,074	961	△ 113
借入金の純増減額	1,250	1,293	43
現金及び現金同等物 期中増減額	1,529	145	△ 1,384
現金及び現金同等物 期末残高	5,188	5,333	145

2020年3月期の業績予想

- 化成品事業は、半導体・電子部品市況の悪化の影響、各メーカーの在庫調整、期前半は、足元の状況が続くと見込む。
- 電子材料事業は、放射性ヨウ素吸着剤の販売は見込まず。

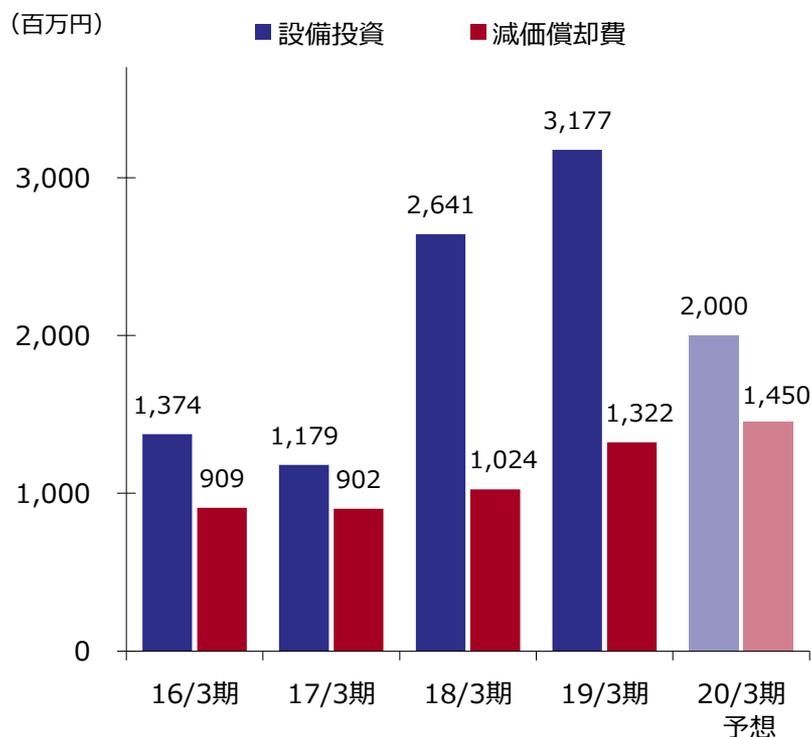
(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期予想	増減	前年同期比
売上高	30,999	31,000	1	0%
化成品事業	22,127	22,300	173	1%
機械事業	5,441	5,700	259	5%
電子材料事業	2,234	1,800	△ 434	△ 19%
その他の事業	1,196	1,200	4	0%
営業利益	2,573	2,000	△ 573	△ 22%
化成品事業	1,795	1,650	△ 145	△ 8%
機械事業	370	450	80	22%
電子材料事業	575	200	△ 375	△ 65%
その他の事業	728	700	△ 28	△ 4%
全社費用など	△ 897	△ 1,000	△ 103	—
経常利益	2,618	2,000	△ 618	△ 24%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,274	1,500	△ 774	△ 34%
1株配当金	40.00円	40.00円	—	—

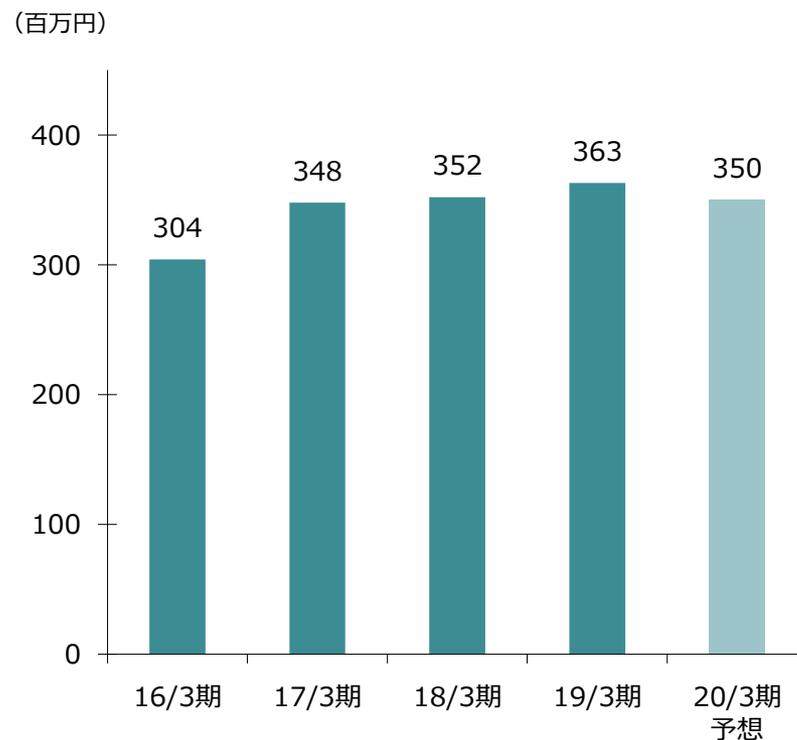
設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、主に化成品事業において、半導体向け高純度リン酸設備の更新と増強を実施。
- 2020年3月期は、主に化成品事業で、コンデンサー向け原料の増強およびその他設備更新をすすめる。

設備投資・減価償却費



研究開発費



3. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画2020（19/3期～21/3期）の概要

中期経営計画2020

～「事業基盤の更なる安定と強化」を目指す～

目 標

1. 連結営業利益 33億円
2. 連結自己資本比率 50%
3. 業績に応じた配当の継続

事業戦略

- ◆ 既存事業の強化・領域拡大
- ◆ グローバル市場への対応強化
- ◆ 新規事業の探索・育成

中期経営計画2020の事業戦略

全社方針

既存事業の
強化・領域拡大

グローバル市場への
対応強化

新規事業の
探索・育成

施策

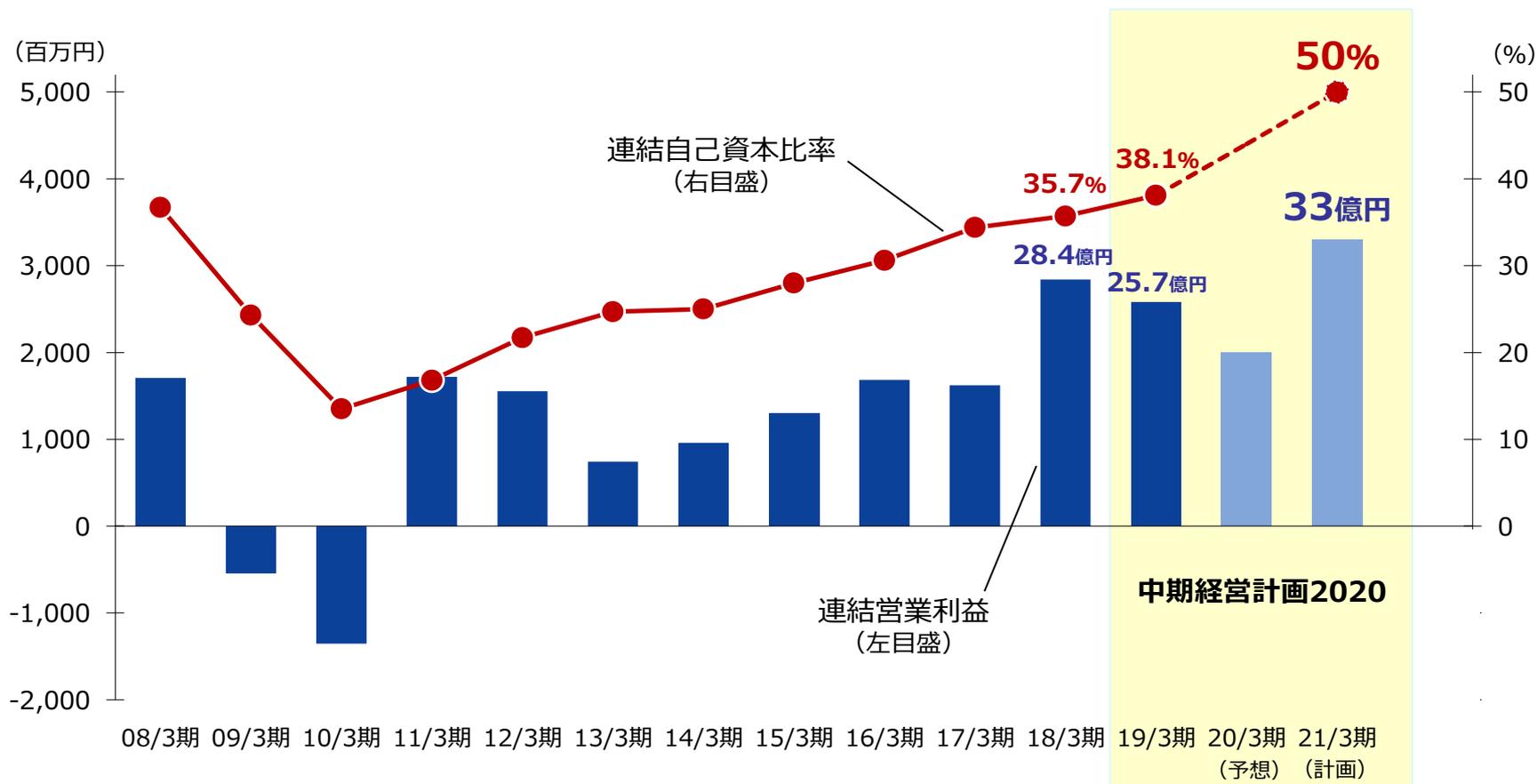
- ✓ 既存商品の拡販による収益向上
- ✓ 営業力強化とユーザーニーズの早期把握
- ✓ 設備維持保全・安定供給力の向上

- ✓ 販売・仕入ともにアジア市場への取組み強化
- ✓ 原料調達及びデリバリーの安定確保の強化

- ✓ 製品開発と営業の連携強化
- ✓ ユーザー拡大と高付加価値化

中期経営計画2020の数値目標

収益力の向上を図るとともに財務体質の一層の強化を目指す



中期経営計画初年度（19/3期）の施策と総括

- ✓ 期前半は、前年実施した半導体向け高純度リン酸の増産投資が寄与し、おおむね計画通り。
- ✓ 3Q後半より、外部環境の変動もあり、販売伸びが鈍化。

化成品事業

機械事業

電子材料事業

施策

- ・高純度リン酸他の拡販
- ・グローバル市場での体制強化
- ・消臭剤の拡販

- ・震災復興関連の取り込み
- ・下水道向け掘進機の海外新規市場の開拓
- ・粉体向け機械販売の強化

- ・高純度無機素材の収益改善策
- ・放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の営業強化

計画線

- ・高純度リン酸の増産および更新投資一段落（日本・台湾・韓国）
- ・コンデンサー向け原料、設備増強を進行

- ・震災復興関連 – 中間処理等のプラントの受注

- ・AgXの販売実現

やや遅れ

- ・外部環境の変化により、半導体メーカーの動向注視
- ・消臭剤の海外展開

- ・下水道向け掘進機の海外新規販売
- ・粉体向け機械販売

- ・塗布剤を含めた新規開発商品

今期重点施策

化成品事業

- 高純度リン酸他の拡販
 - ✓ 半導体メーカーの動向を注視
 - ✓ コンデンサー向け原料の拡販・増産対応
- グローバル市場での体制強化
 - ✓ 各地製造拠点での稼働ロスのない取り組み推進

機械事業

- 震災復興関連の取り込み
 - ✓ 中間処理等のプラント販売における収益管理の徹底
- 下水道向け掘進機の海外新規市場の開拓
 - ✓ 東南アジア新興国へ注力
- 粉体向け機械販売の強化
 - ✓ バイオマス熱利用装置の販売

電子材料事業

- 高純度無機素材の収益改善策
 - ✓ 通信分野での需要に注力
- 放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の営業強化
 - ✓ 海外向けの販売実現

セグメント別基本戦略

既存事業の強化・領域拡大

グローバル市場の探索・育成

新規事業の探索・育成

化成品 事業

リ
サ

- ✓ IoT、AI、車載関係用途の需要拡大
- ✓ コンデンサー向け原料の拡販

- ✓ 高純度リン酸の需要拡大
- ✓ 海外関連会社との連携
- ✓ 消臭剤の需要リサーチ

- ✓ 消臭剤の拡販
- ✓ 新規開発製品の探索

機械 事業

イ
ク
ル

- ✓ 震災関連事業
- ✓ 既存事業の維持

- ✓ 土木機械・粉体向けの新規開拓

- ✓ バイオマス熱利用装置の新たな営業展開

電子材料 事業

事
業

- ✓ 高純度無機素材の収益改善

- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤 (AgX)の海外向け販売実現

- ✓ 塗布剤の拡販
- ✓ 新規開発製品の探索

<トピックス> 放射性ヨウ素吸着剤①

実用発電用原子炉及び 核燃料施設等に係る新規制基準

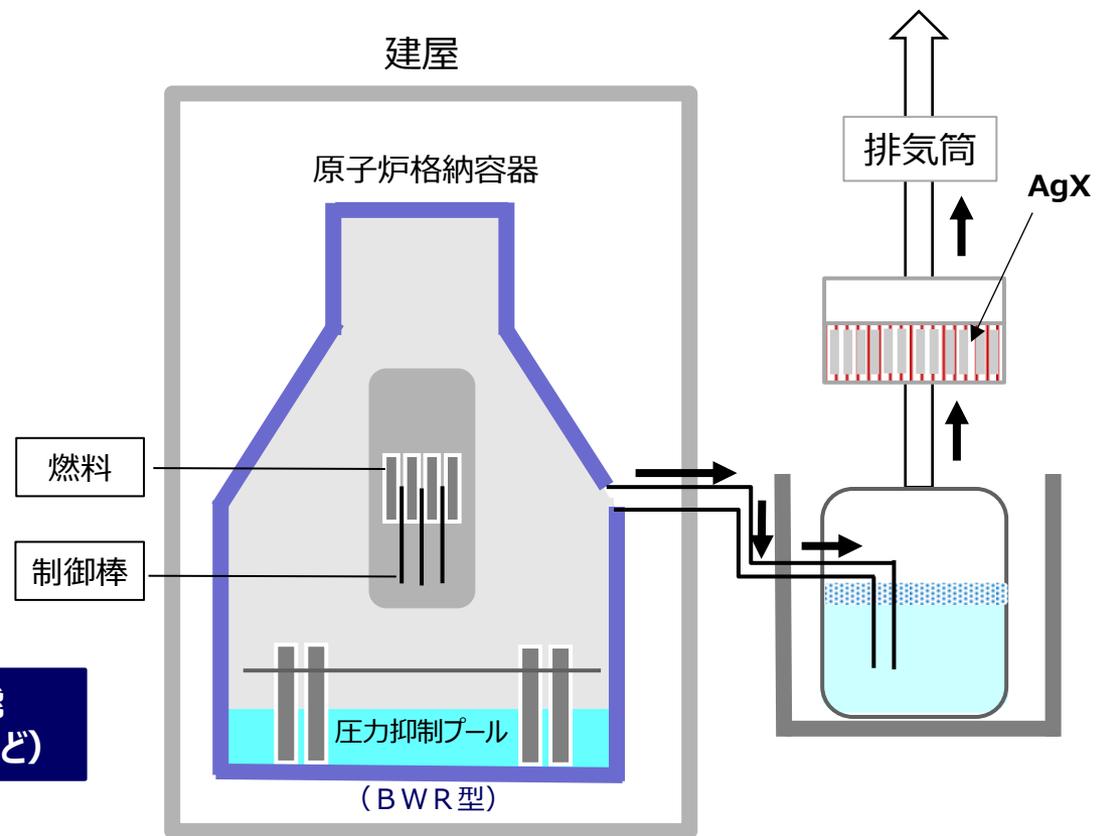
意図的な航空機衝突への対応	} 新設	} (テロ対策) (シビアアクシデント対策)
放射性物質の拡散抑制対策		
格納容器破損防止対策	} 新設	
炉心損防止策		
内部溢水に対する考慮 (新設)		
自然現象に対する考慮 (火山・竜巻・森林火災を新設)	} 強化又は新設	
火災に対する考慮		
電源の信頼性	} 強化	
その他の設備の性能		
耐震・耐津波性能		

**格納容器の閉込め機能
(BWRのフィルタベントなど)**

「AgX」[®] 使用例

ベント設備 (格納容器圧力逃がし装置) のフィルタに吸着材として組み込まれる。

フィルタ付きベント設備



<トピックス> 放射性ヨウ素吸着剤②



AgX[®]・AgR[®] の主な特徴

1. 高温・高湿・高圧条件でも高い有機ヨウ素吸着性能。
2. DPD（露点温度差）5K以下でも高い吸着性能。
3. ベント開始時の水蒸気の凝縮時でも高い吸着性能。
4. 水素含有ガス下での高い吸着性能。
5. 450℃5日間、145℃100日間などの過酷条件で機能喪失しない。
6. 水に濡れた場合でも機能喪失しない。
7. 不燃性



AgX[®] の特徴

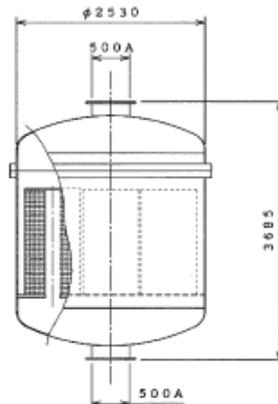
1. 低温領域（マイナス40℃まで評価）でも高い吸着性能。
2. 活性炭（TEDA・KI）との置き換えが可能。
3. 原子炉内、原子力建屋等の水素除去に有効。

AgR[®] の特徴

1. PWR型原子炉の高濃度水素含有ガス下でも優れた吸着性能。
2. 耐水性が高い。
3. AgXと併用することで更なる安全性向上が可能。



1. 塩素ガス吸着剤
2. 希ガス吸着剤の開発



3. AgX Filter



4. Mobile Filter System

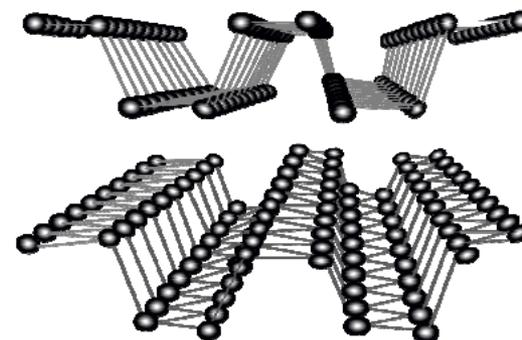
<トピックス> 開発商品：黒リンの量産技術確立

- 弊社は、創業の材料であるリンの系譜として黄リン、赤リンに続き、黒リンが次世代を担う材料であるとして研究を続け、このたび、**量産技術を確立**いたしました。国内外へサンプル供給を開始し、**次世代の半導体や電池**への材料普及を目指しております。



- 黒リンは2次元層状物質として知られていましたが、従来は高温高圧下でないと製造が困難なものでした。近年、**2次元層状物質の研究が活発になるにつれて弊社への黒リンの供給依頼が高まっております。**

- 2次元層状物質とは、原子が右図の様に、平面の層状になった結晶物質です。この構造自体は古くから知られていましたが、結晶から層状の原子層を取り出すのが困難でした。2004年に黒鉛からグラフェンをセロテープで剥がす方法が見出され、グラフェンの2次元層状物質の材料研究が活発化してきました。



<トピックス> 設備投資

大阪工場

- 半導体向け高純度リン酸増産
(2018年3月期)
- 台湾・韓国を含めた3拠点体制を構築



伊勢崎工場

- コンデンサー向け原料増産
(2019年3月期、2020年3月期)



本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだもののご理解下さい。

－IRに関する問い合わせ窓口－
ラサ工業株式会社 経理部
03-3278-3892